

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472700139		
法人名	特定医療法人社団 大久保病院		
事業所名	グループホーム くたみのもり		
所在地	竹田市久住町大字栢木574-110		
自己評価作成日	平成22年9月10日	評価結果市町村受理日	平成22年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4472700139&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成22年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・久住山麓の麓にあり、四季折々の季節を感じる中、利用者一人ひとりの思い・役割、楽しみを見つけ、穏やかに過ごせる様に取り組んでいます。
母体に大久保病院、併設の保健施設、小規模多機能などの事業所との連携を行い、利用者・ご家族様の不安を解消し、地域で安心して暮らせる様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・病院が母体であり診療科目も多い為、家族、利用者ともに安心感を持って生活している。
・スタッフ間の協力体制がよく取れていて、排泄の自立支援につながるなど、ケアの改善の取り組みが実践できている。
・広ひろとした大自然の中にあり、居ながらにして紅葉など四季を実感しながら暮らしている。部屋の窓からは久住山も望まれる。
・隣接する介護老人保健施設の運動会などの行事に、グループホームの利用者も参加し、地域住民との交流を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践にしている	事業所理念の中に地域密着の視点を取り入れ、月1回のミーティングにて取り組みが出来ているか検討している	朝の申し送り時に理念を復唱し、職員間で確認しあい、ケアの実践に繋いでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老健の夏祭りや文化祭等に参加し、地域の人々との交流に努めているが、日常的には難しい	利用者と買い物に出かける時は、近隣の店を利用するなど交流に努めている。地域住民の高齢化などで日常的な交流は難しいので、隣接の施設行事の時に外出いたり、また知り合いがデイサービス利用時に会いに行ったり、来てもらうようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、支援方法等を話す機会はあるが、地域への研修会などは開いていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現在取り組んでいる内容を報告し、取り上げられた意見や要望をサービス向上に活かせるようにしている	事業所の取り組み内容など現状報告をしている。また、グループホームが良く分からないと言う意見が聞かれた為、今後、地域の方達に向けて勉強会を予定するなど前向きに取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外での交流は少ないので、協力関係を築き連携をもっていきたい	地域包括支援センターと相談したり、認知症ケア会議の中で相談している。地域包括支援センターの職員が定期的に来ている。また事業所も、利用者状況報告書や広報誌を届けている。随時電話で相談もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての掲示を行い、ケアの中でも、身体的・言語的な拘束は避け、見守りや提案型の声かけをしている。利用者の行動や状態を観察し、外出しそうな時は声かけや一緒について行く等の対応を行っている	日々のケアの場面で否定的な言葉がけは行わないようにしている。見守りのケアを重視し、行動制限を出来るだけしないようにしている。外出しそうな利用者には、一緒について行っている。部屋からベランダに自由に出来るよう、鍵は掛けていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に参加し、学ぶ機会をもっている。また、事業所内に高齢者虐待防止について提示し、職員間でも虐待が見過ごされないように注意し防止に努めている		

事業者名：グループホームくたみのもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学ぶ機会をもっている。また、対応が必要と思われる利用者がいる場合は制度や機関を活用出来るように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前・入居時に契約・解約に対し、利用者や家族に向けて説明を行なっている。また、起こりうるリスクについての対応等は詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、電話や面会時・家族会などで声かけを行い、何でも話して頂けるような環境作りに留意している。出された意見はミーティング等で話し合い反映させている。	3ヶ月に1回、行事などを利用して、家族会を行い、意見を聞くようにしている。通常の面会時にも、担当の職員が聞くようにし、出された意見はミーティング時に話し合いを行い、ケアに反映している。遠方の家族は、メールでやり取りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを定期的開催。また、日頃からコミュニケーションを持つように心がけ意見を聞くようにしている	定期的に個人面接をし、職員の意見を引き出し、その意見をミーティングで話し合い、ケアに反映している。また、日頃からコミュニケーションを取るように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日常的に職員と話をする機会をもち、勤務状況等を把握し、各自が向上心を持って働けるよう取り組み、整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量に合わせた法人内・外の研修を受ける機会を作り人在育成に努めている。また、働きながらトレーニング出来る様に、指導を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の相互訪問の機会を作り、活動を通して意見や経験を活かし、サービスの質の向上を目指している		

事業者名：グループホームくたみのもり

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問の際に、身体状況や不安要素を尋ね情報を職員間で共有している。 また、本人の不安な事や困った事などを入居時に尋ね、安心を確保出来るように対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や家族へのオリエンテーションの際、不安や要望などを尋ね、取り入れられるようにケアを検討し、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家屋の相談内容に応じ、相談員や他事業所との連携調整を図り、可能な限り対応出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と共に、本人の能力に応じた家事や掃除等を行い、利用者から学び、支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡、「くたみのもり便り」で現在の状況を報告し、家族と情報を共有し、家族からの要望も取り入れ、これからの支援内容の検討も行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人に連絡をとるなど、馴染みの関係が途切れないように支援している	併設施設の、老人保健施設やデイサービスセンターの利用者に会いに行ったり、グループホームに会いに来てくれたりと、交流の継続を支援している。家族の協力を得て、行きつけの美容院へも行っている。また、手紙や電話でのやり取りが続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を充分に把握し、孤立しないように共同作業や会話が出来る環境をつくり、お互いが支え合えるように支援している		

事業者名：グループホームくたみのもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、利用者や家族とコミュニケーションを取り状況を把握し、関係を断ち切らない付き合いをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人を尊重し本人の意向を知り、言葉や表情から本人の意思をくみ取れるように努めている 困難な場合は本人の立場に立ち、家族と共に検討している	日々の関わりを通していろいろな場面の中で、表情や態度から本人の意思を推測、把握し、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族に、利用者生活調査書に記入して頂き、把握している、利用者との交流を通じ情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の行動を観察し会話を通して、何を考え、何を求めているか、健康状態等を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントに基づいてカンファレンスやモニタリングを行い、職員全体で意見を出し合いケアプランを作成している	日中、夜間の状況などを「日常生活記録簿」に記録したものを、担当がまとめ、カンファレンスやモニタリングで検討しながら介護計画を作成している。なお、より良い介護計画書を作成するために、アセスメントツールの検討をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテの日常生活記録に記録し、情報を共有する事で日々のケアやケアプラン等に反映させている個別に食事や水分量、排泄チェック表等を活用し状態の把握変化等に気付けるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族等の状況に応じ、受診や通院の対応が出来るように支援している		

事業者名：グループホームくたみのもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域総合支援センターの委員メンバーに在籍している為、意向や必要に応じて協力してもらえるよう体制作りは行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の大久保病院に無い科については、基本的には家族付き添いの元、受診している 歯科と皮膚科は、往診で対応している	「母体が医療機関なので安心」と言う家族・本人が多いが、希望に応じて対応している。家族の同行受診が困難な場合は職員が代行している。家族が受診に同行した時は、受診報告を聞き、記録している。皮膚科は往診をしてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤ではないが、老健看護師が毎日来所し、利用者の状況について、報告・相談し、情報の共有が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者は、医師や看護師と情報交換を行い、状態の把握に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応が出来るよう、現在調整中である	家族・利用者の意向に応じて、意思確認を行い、今後は看取りを行うことを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受けられるような対応をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しており、全職員が把握している 避難経路の確認をしている	避難時のマニュアルを作成し、毎月行うミーティングの時に確認している。併設施設の老人保健施設と協力して、定期的に避難訓練を行い、協力体制は充分出来ている。消防署立会いの消防訓練も定期的に行っている。	

事業者名：グループホームくたみのもり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドや誇り・プライバシーを損ねるような声かけをしない、自己決定できる言葉かけをするように努めている	指示的な言葉がけではなく、自己決定が出来るような言葉がけをしている。プライバシーを損ねるような言動が見られたら、その都度注意している。なお、3ヶ月に1回行う職員との個人面接の時にも、注意事項を確認している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけ行い、意思疎通ができない方には、カード等を使い、本人が決める場面をつくっている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている 困難な場合には、利用者の立場で考え、意向に沿えるように職員で検討している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みの衣服を着て頂き、気持ちよく1日を過ごせる様に支援している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け・片付け等を職員と一緒にやっている おやつは季節のものを取り入れるようにしている	事業所では食事は作っていないが、併設施設がつくった物を一緒に盛り付けている。栄養士が状況把握や話し合いに定期的に来ている。月1回の行事食やおやつは、季節の食材を使い、利用者の希望を聞き、事業所内で一緒に作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し、情報を職員間で把握している 献立は、業者委託の為栄養バランスの取れた食事が提供出来ている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせ、舌下ブラシ等を使用した口腔ケアを行っている 自分で出来る方は見守り・声かけを、出来ない方は毎食後のケアを行っている			

事業者名: グループホームくたみのもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗が防げるように、自立支援に努めている、必要時には話し合いをして問題解決に努めている	排泄チェック表を使用し、利用者個々の排泄状況を把握し、早めに対応することで、布パンツや尿取りパッドに移行したり、トイレの使用につながるなど排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、排便がない場合は牛乳等を飲んで頂くなど、対応を行っている、日常的に適度な運動などを取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2・3日に1回は、入浴を行っている 希望に応じて、毎日の入浴を実施している	温泉があり、朝・晩や、希望があれば毎日入浴もできるようになっている。個浴だが仲の良い利用者同士で入浴したり、拒否をする利用者は、気心の合う利用者の誘いで入浴するなど個々に合った入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を知り、無理な生活をしないよう、休息を持ったり、会話をしたり適度な運動を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の目的や副作用等を理解し、用法・用量を守り、確実に服用し変化等の確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした軽作業(畑仕事、縫い物、習字など)が出来るように気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1日1回は外気に触れ、折々の季節を感じて頂けるように支援している 本人の希望があれば、家族に連絡し外出の支援を調整して頂いている	希望にそって施設周辺の戸外散歩に出かけている。ベランダも部屋から出入りが出来、いつでも自由に外気に触れることが出来ている。紅葉見物など季節に応じてドライブなどに出かけている。	

事業者名：グループホームくたみのもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、家族の意向もあるが、本人の安心や満足に向けて小額でも所持金を持って頂けるように家族との相談しながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、電話の支援をしたり、手紙を書くことの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節や照明等、利用者が落ち着いて生活できるよう、住空間に配慮している 食堂や居間から季節の花や野菜が見られるように工夫している	木造作りで天井も高くゆったりとしている。利用者の各居室の入り口は名札ではなく、色分けで表すなどプライバシーへの配慮がなされている。食堂や居間にはソファがあり、くつろげるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間にソファを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士が過ごせる様にしている また、食堂は何処からでもテレビが見られるように、テーブル・椅子の配置に配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた品物や使い慣れた物を持って来て頂き、利用者が心地よく過ごせる空間作りに努めている	本人の気に入った品物や仏壇を持ち込んだり、孫や家族との写真を飾ったり、その人らしい、生活感のある居室づくりが出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかることを見極め、状態が変わった場合はその都度、職員間で話し合い、環境整備に努めている、理解度に合わせ名前を貼ったり扉に目印を付け自分の居室が分かる様に工夫している		